



2009 第5回 なかどまりまつり



まちの話題

# なかどまりまつり



「伝統」が祭りを盛り上げる

中里地域では、宮川獅子舞の演舞をオープニングに、300年以上前の寛永年間から始まったとされる伝統の「なにもさ流し踊り」が行われ、沿道を埋めた観客の前で約350人の踊り手たちが、中央公民館からパルナスまでの道のりを盆唄に合わせ踊りました。今年初めて中学校の生徒も参加し、元気にまつりを盛り上げてくれました。会場をパルナス駐車場に移し、保育所・幼稚園によるダンスが行われた後、今年、町無形民俗文化財に指定された「津軽伝統金多豆蔵人形一座」の人形劇が行われました。使い慣れた津軽弁での掛け合いに、特に帰省で帰ってきた観客は大喜びでした。人形劇の後は、ピンゴ大会、よさこい中里を行い、よさこいは今年もたくさんのチームが参加してくれました。最後は、花火でフィナーレを迎え、夏の夜空を焦がしました。

## 小泊地域

8/14(金) 小泊地区  
8/15(土) 下前地区

地域ならではのメニューで

小泊地区は、古くから行われている神事の「大漁祈願祭」を皮切りに、まず海上相撲大会が行われました。マリナーパーク内の海上で行われた大会では、海の上に浮かべた「土俵」の上に、環境に優しいEM菌入り洗剤がまかれ、「すべり出し」など海上相撲ならではの決まり手が飛び出す楽しい大会となりました。



「館岡屏風山スコップ三味線」では、小さいお子さんとのセッションも行われ大いに盛り上がったほか、お待ちかねの「マグロ解体ショー」がその後行われました。約5分で解体されたマグロは、会場の観客にふるまわれましたが、あっという間に長蛇の列ができ、皆さんの胃袋におさまってしまいました。

その後、「花柳舞踊」「よさこい」「流し踊り」「権現太鼓」の披露が行われ、運行されていたねぶたが会場に到着しました。ねぶた到着後も保育所児童の舞踊やカラオケ大会が行われ、夜遅くまで会場は熱気に包まれていました。



2009 第5回 なかどまりまつり

## 中里地域

8/11(火)

